

それでも自分で選んだと言える人生を



法学部長

中島 康予

Yasuyo Nakajima

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして皆さんがこの日を迎えるまで、皆さんを支え、ともに歩いて来られたすべての方々々に心からお祝いを申し上げます。

学位記を手にしたとき、皆さんの胸に去来したことは何ですか。多摩キャンパスで大学生活の一步を踏み出してから、皆さんが重ねてきた一つ一つの選択、そして選択しなかったあれこれのことが、学位記という形をとり、皆さんの手元にあるのだということを変更して心に刻んでください。

今日、環境、開発、貧困、ジェンダー、家族、宗教・文化、平和、人権等の問題が、グローバル・リージョナル・ナショナル・ローカルの多層的世界で複雑に絡み合っており生起しています。これらの問題が人びとの自由な選択を妨げているのかもしれませんが。だとすると、その解決に取り組むことは、他者のみならず、みなさん自身の自由な選択を可能にし、生き方の幅を広げることにもなります。法学部を巣立つ皆さんに求められているのは、問題解決に取り組む強い意欲を、法律学・政治学の専門的知識と結びつけて、他者とともに意思決定を行い、行動に移す能力にさらに磨きをかけていくことです。

わたしたちが社会の外で生きるという選択をすることはきわめて難しい、そのようなことは不可能と言ってよいでしょう。社会のなかで生きる以外の選択肢は用意されていない。それでもなお、皆さんが自分で選んだのだと言える人生を歩んでいくことを願っています。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。



経済学部長

谷口 洋志

Yoji Taniguchi

皆さんは、中央大学で過ごされた数年間を経て、次のステップに向けて旅立たれます。人生80年のうちの約5%を過ごされた中央大学での「歴史」は、有意義だったでしょうか。入学時の希望や夢が途中で雲散霧消したり変質・変形したり、あるいは予想以上に進展したりと、人それぞれであったに違いありません。「人生いろいろ」であるように、「学生生活いろいろ」であったことでしょう。

皆さんの門出に際し、一言、はなむけの言葉をお贈りしたいと思います。

今後の人生においては、数え切れない「失敗」に直面することと思います。しかし、「失敗」の多くは「貴重な経験」であり、将来の成長や発展につながる要素、あるいは将来生じるかもしれない大きな失敗の回避につながる要素を含んでいるかもしれません。実際、私たちが直面する問題は初めてということが多く、模範解答など最初から用意されているはずがありません。その意味ではすべてが初めての経験であり、チャレンジです。

こうした「失敗」を数多く経験すること、そのためには「失敗」を恐れずに、「失敗」から貴重な教訓を学ぶことが、人間を少しずつ大きくしていくように思います。数多くの失敗と学習の積み重ねが、きっと揺るぎない自分を形成していくことでしょう。人生における先輩として、今後沢山の難局に立ち向かうであろう皆さんを応援しています。